

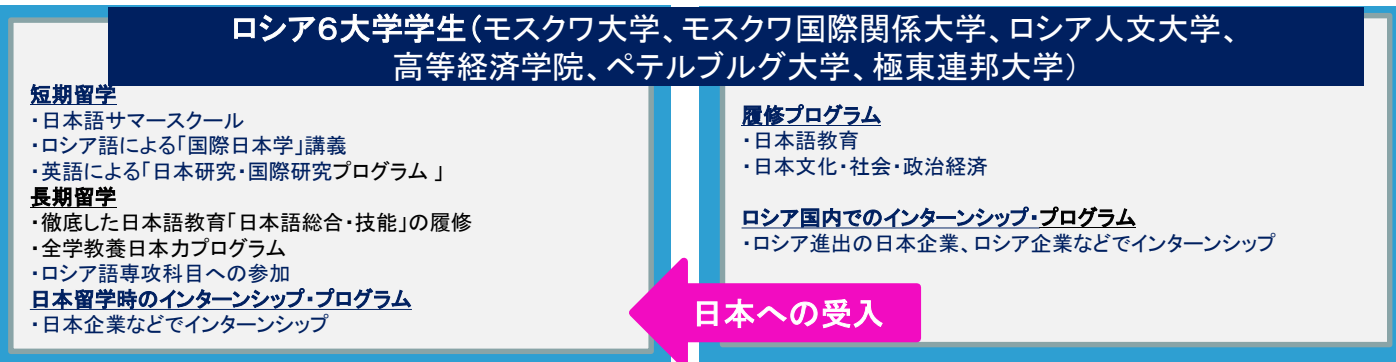
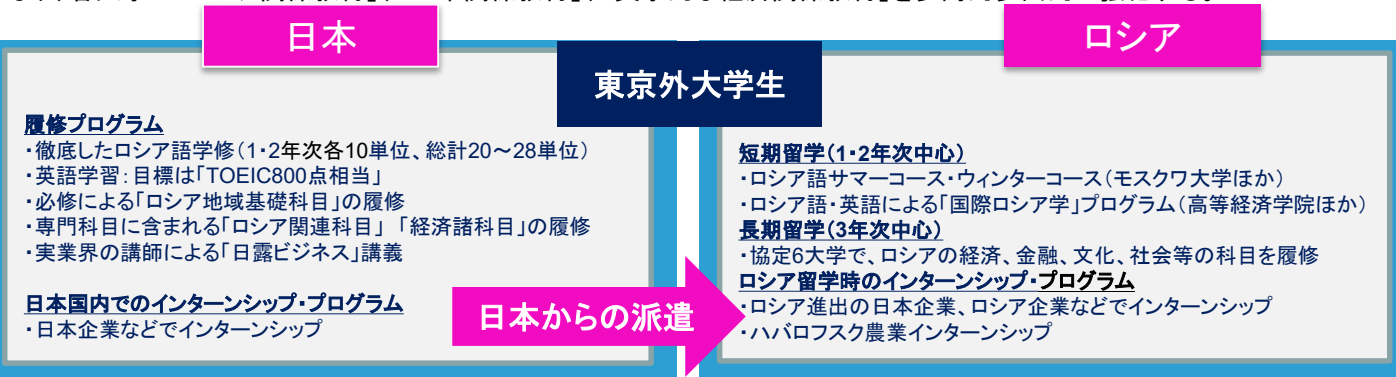
大学の世界展開力強化事業(平成29年度選定) 東京外国語大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度29年度・タイプA(ロシア))

日露人的交流の飛躍的拡大に貢献するTUFSD日露ビジネス人材育成プログラム

【事業の概要】

「日露人的交流の飛躍的拡大に貢献するTUFSD日露ビジネス人材育成プログラム」は、東京外国語大学とロシア6協定校(モスクワ大学、モスクワ国際関係大学、ロシア人文大学、高等経済学院、ペテルブルグ大学、極東連邦大学)が日露ビジネス人材の育成のため、共同で行う取組である。本取組は、短期留学、長期留学、インターンシップの3種の交流プログラムからなり、各大学の「ロシア関係教育」、「日本関係教育」、「実学的な経済関係教育」を多角的多面的に強化する。



【交流プログラムの概要】

- 1) 短期留学プログラム: 学部1年次、2年次の学生を中心とした、「ロシア」「日本」「日露関係」についての教育の基礎を固める、2～4週間のプログラム
- 2) 長期留学プログラム: 学部3年次の学生を中心とした、「ロシア」「日本」を専攻する学生がロシア・日本の経済・社会・文化を専門的に学ぶ約1年間のプログラム
- 3) インターンシップ・プログラム: ロシア、および日本において、本学学生、ロシア6協定校学生双方が参加する多様な分野における就業体験プログラム

【本事業で養成する人材像】

本事業では、日露の連携強化をめざし、日露ビジネスで活躍する次のような能力を備えた人材を育成する。

<言語力>(履修と留学を通じ)ロシア語・英語・日本語を高いレベルで運用できるトライリンガル能力

<ロシアと日本についての教養・知識、経済についての知見>(それぞれの大学、および留学先での履修を通じ)日露双方の歴史・社会・文化・経済に関する知識と教養、及び経済・統計・会計などビジネスに不可欠な基礎的知識

<調整力・行動力>(留学やインターンシップを通じ)多様なステークホルダーの要請を調整し諸課題を解決するために必要な粘り強さ、他者を尊重する想像力・協調力、自主性、創造力

これらをバランスよく育み磨いていくことにより、卒業後、多様なビジネス分野に関わる応用力を備えた卓越した日露ビジネス人材を育成し、これにより日露の連携強化に貢献する。

【本事業の特徴】

- ・ 短期・長期留学にインターンシップを組み合わせることで、「言語力」、「ロシアと日本についての教養・知識、経済についての知見」及び「調整力・行動力」を涵養し、貿易・金融、観光・交通、農水産業、製造業・IT、医療通訳を含む通訳翻訳、報道分野などの多様な分野で活躍する人材を養成する。

- ・ 本取組は、同窓会組織である「東京外語会」と、日露ビジネスで活躍する本学卒業生による「TUFSD日露ビジネスネットワーク」との協働のもとで実施する。

【交流予定人数】

	H29	H30	H31	H32	H33
学生の派遣	28	30	32	34	37
学生の受入	15	41	43	45	47

1. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【東京外国語大学】

【事業の名称】(選定年度29年度・タイプA(ロシア))

日露人的交流の飛躍的拡大に貢献するTUFSD日露ビジネス人材育成プログラム

■ 交流プログラムの実施状況

・本事業初年度である平成29年度においては、学内外の事業推進体制を整えたほか、短期留学、長期留学及びインターンシップの3種の交流プログラムにおいて学生の派遣及び受入を計画どおり実施した。



"Two Cities - Two Universities Program"
モスクワ大学の前で



横河電機モスクワで事業概要を聴く長期派遣学生
(インターンシップ中の1コマ)



国際交流基金日本文化センター(モスクワ)の
インターンシップで、小学生に本学の紹介をする派遣学生

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

・短期派遣: モスクワ大学とペテルブルク大学の2大学で学ぶ"Two Cities - Two Universities Program"と極東連邦大学(ウラジオストク)のロシア語コースへの参加を通じ、語学だけでなく、ロシアの文化や伝統についての知識を深めた。

・長期派遣: ロシア語検定試験(TORFL)準備科目などのロシア語の授業のほか、マスメディア論、ロシアの外交政策、法律体系や社会生活、経済等を履修した。また、多岐に渡る業種・類型のインターンシップへの参加が、日露ビジネスの現場を学び、学生各人が伸ばすべきスキルやコンピテンシーを認識する良い機会となり、高い目的意識を持って留学生活を送ることができた。

○ 外国人学生の受入

・長期受入: 日本語の他、日本の文化(伝統芸能、俳句)及び社会関連科目、経済を中心に学び、受入学生の我が国の文化・社会・経済についての理解が深まった。

・日本でのインターンシップ受け入れ先を精力的に開拓した結果、多様なインターンシップを提供できる体制が整った。

	H29		
	プログラム	実績	計画
学生の派遣	短期	23	13
	長期	16	15
学生の受入	短期	-	-
	長期	8	15

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

・11月~3月にかけて6協定校を訪問し、本プログラムの実施について協議を行い、留学及びインターンシップの位置付け、派遣・受入の環境について確認を行った。

・第1回有識者会議及び外部評価委員会において、本事業に参加した学生の留学、ビジネス関連科目の履修、インターンシップの質保証を、参加証明書により担保する案が委員より提案された。会議での提案を踏まえ、外国語力基準(ロシア語・英語)、ビジネス関連科目の履修、インターンシップの質保証に繋がる見直しを行い、RJIプログラム制度(R=国際ロシア学、J=国際日本学、I=インターンシップ)の枠組みを策定した。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

(ロシア6協定校学生の受入)

・プログラム・コーディネーターと留学支援共同利用センターが協力しながら、受入の準備、到着してからのサポートを提供する体制を整えた。

(本学学生の派遣)

・現地(在モスクワ)コーディネーターを採用し、協定校の1つである国立研究大学高等経済学院に設置した Global Japan Office(GJO)をインターンシップ拠点として活用した。

・GJOコーディネーターが、現地での生活相談の窓口となり、派遣学生を支援した。

(インターンシップのための環境整備)

・ロシアで本学学生にインターンシップ機会を提供するに当たり、ロシアの外部専門家から法的リスクについてのアドバイスをもらい、プログラムコーディネーター、TUFSD日露ビジネスネットワーク、現地コーディネーター間で共有した。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

・10月に本交流プログラムの広報・情報発信のためのホームページを、3カ国語対応で立ち上げた。本事業の活動状況、インターンシップ、ネットワーク等についての情報をリアルタイムで国内外に発信した。

・本事業のパンフレット、平成30年度TUFSDビジネスサマースクールのフライヤーを、3カ国語(日・英・露)、2カ国語(日・露)で作成し、6協定校及び企業・団体に配付した。これにより、日本国内外関係者の本事業への理解が深まり、事業への協力を得ることができた。

■ 特記事項

・ロシアビジネスについて豊富な知見を有し、本事業の趣旨に賛同した本学卒業生を中心とした「TUFSD日露ビジネスネットワーク」の支援により、特にロシアにおける多様なインターンシップの実施が実現した。平成30年度以降は、日本国内でのインターンシップにもその協力が見込まれている。

・モスクワ、サンクト・ペテルブルク、ウラジオストクに長期派遣中の学生16名に対し、計10の受入企業・団体において13回にわたり、多様なタイプのインターンシップ機会を提供した結果、派遣学生1人当たり3~4回、延べ49名が参加した。



本学卒業生(TUFSD日露ビジネスネットワーク構成員)による採択記念講演会

2. 取組内容の進捗状況(平成30年度)

【東京外国語大学】

【事業の名称】(選定年度29年度・タイプA(ロシア))

日露人的交流の飛躍的拡大に貢献するTUFSS日露ビジネス人材育成プログラム

■ 交流プログラムの実施状況

・前年度に整備した事業推進体制をベースに、短期留学、長期留学及びインターンシップの3種の交流プログラムにおいて学生の派遣及び受入を計画どおり実施し、派遣、受入すべてにおいて計画数を上回る実績を上げた。



極東連邦大学での交流イベントに参加



デロイト(モスクワ)での日露合同インターンシップ



受入学生が創価高校でロシア語を学ぶ生徒たちと交流

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

・**短期派遣:** モスクワ国立大学とトベリ国立大学の2大学で学ぶ“Two Cities - Two Universities Program”と極東連邦大学(ウラジオストク)のロシア語コースへの参加を通じ、語学だけでなく、ロシアの文化や伝統についての知識を深めた。
・**長期派遣:** ロシア語の授業のほか、ロシアの外交政策、法律体系や文化、経済等を履修した。また、多岐に渡る業種・類型のインターンシップへの参加が、日露ビジネスの現場を学び、学生各人が伸ばすべきスキル、獲得すべき知識を認識する良い機会となり、高い目的意識を持って留学生活を送ることができた。

	H30		
	プログラム	計画	実績
学生の派遣	短期	15	23
	長期	15	16
学生の受入	短期	26	29
	長期	15	17

○ 外国人学生の受入

・**短期受入:** 第1回日露ビジネスサマースクールを開催し、計画を3名上回る29名の学生を6連携校から迎えることができた。語学能力向上を図る「日露タンドেম学習」、ロシア語による授業で日本についての理解を深める「国際日本学」の2部構成で、参加学生の満足度は非常に高かった。また本学の学生と交流を深めることができた。
・**長期受入:** 日本語に加え、日本の文化及び社会関連科目を中心に学び、我が国の文化・社会・経済について受入学生の理解が深まった。
・多様なインターンシップの機会を提供することにより、学生の日本に対する理解が深まった。



サマースクール時の「日露タンドেম学習」

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

・3月にプログラムコーディネーターが6連携校を訪問し、本プログラムの実施状況について報告し、意見交換を行った。特に、受入学生が本学で修得した単位をロシアの所属大学で認定する「単位互換」について状況確認を行い、各連携校から前向きな対応を引き出すことができた。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

(ロシア6連携校学生の受入)

・受入の準備、到着してから帰国まで、プログラムコーディネーターと留学支援共同利用センターの連携を密にし、きめ細やかなサポートを行った。

(本学学生の派遣)

・現地(在モスクワ)コーディネーター、国立研究大学高等経済学院に設置した Global Japan Office (GJO) によるインターンシップのサポート等派遣学生への支援体制を継続した。派遣前、ロシアに特化した危機管理説明会を新たに行った。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

・(国際化)事業実施により派遣・受入学生の絶対数と日露の学生が交流する機会が飛躍的に増えた。
・(情報の公開、成果の普及)本交流プログラムの広報・情報発信のためのホームページをより見やすくするとともに内容を充実させた。インターンシップ、実学教育、交流活動等、本事業の取組実績をリアルタイムで発信した。

■ グッドプラクティス等

・本学のロシア語専攻学生が到達すべき外国語力基準(ロシア語・英語)、履修すべきビジネス関連科目、参加すべきインターンシップを明確に可視化したRJIプログラムの導入により、学生の参加意欲が高まった。
・多種多様なインターンシップを日本国内及びロシアで実施することができた。ロシア国内で24件、延べ95名、日本国内で15件、延べ88名のインターンシップを実施した。単位を修得できる就業体験科目も開講した。5人の受入学生を日本国内企業で行われた5日間連続・泊まり込みのインターンシップに参加させ、日本の中小企業の仕事ぶりを肌で感じさせる機会を提供できた。
・実学教育強化の一環で「日露ビジネス講義」等、新たに4科目を新設し、学生にビジネスの知識と意識を高めさせた。
・「日露タンドেম学習」をサマースクール時に限定せず、通年的に日露学生交流の場として実施することを始めた。
・受入学生と外部教育機関(創価学園、近隣小学校)との間の交流を活発化させた。

3. 取組内容の進捗状況(令和元年度)

【事業の名称】(選定年度29年度・タイプA(ロシア))

日露人的交流の飛躍的拡大に貢献するTUFSS日露ビジネス人材育成プログラム

■ 交流プログラムの実施状況

・整備した事業推進体制をベースに、短期留学、長期留学及びインターンシップの3種の交流プログラムを円滑に運営し、派遣学生数、受入学生数すべてにおいて計画数を上回る実績を上げた。



日露学生が一緒に取り組むワークショップ



TUFSS日露ビジネスネットワーク会合(モスクワ)に一堂に会した本学卒業生と留学中の本学学生と本学に留学経験のある協定校の学生たち



小学校の「国際理解」の授業で日露の学生が授業

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

・**短期派遣**: モスクワ大学主催の“Two Cities - Two Universities Program”(モスクワ・トベリ)、新プログラム“Hello, Vladivostok”及び極東連邦大学の“Far East - Russia”への参加を通じ、ロシア語とロシアの文化・伝統を学んだ。
 ・**長期派遣**: ロシア語の授業のほか、ロシアの外交政策、法律体系や文化、経済等を履修した。また、多岐に渡る業種・類型のインターンシップへの参加が、日露ビジネスの現場を学び、学生各人が伸ばすべきスキル、獲得すべき知識を認識する良い機会となり、高い目的意識を持って留学生活を送ることができた。

	R1		
	プログラム	計画	実績
学生の派遣	短期	17	25
	長期	15	16
学生の受入	短期	28	30
	長期	15	24

○ 外国人学生の受入

・**短期受入**: 第2回日露ビジネスサマースクールを開催し、計画を2名上回る30名の学生をロシア6連携校から迎えることができた。語学能力向上を図る「日露タンドেম学習」、ロシア語による授業で日本についての理解を深める「国際日本学」の2部構成で、参加学生からは高い評価を得ることができた。また本学の学生と交流を深めることができた。
 ・**長期受入**: 日本語に加え、日本の文化及び社会関連科目を中心に学び、我が国の文化・社会・経済について受入学生の理解が深まった。
 ・多様なインターンシップの機会を提供することにより、学生の日本に対する理解が深まった。



サマースクール時の「日露タンドেম学習」

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

・モスクワで行われた第2回日露大学協会総会(9月)の機会を捉え、プログラムコーディネーターがモスクワで協定校の担当者と会い、本プログラムの実施状況について報告し、意見交換を行った。また、1月に東京で行われた第2回日露産官学連携実務者会議では、極東連邦大学(交流校)や他のロシアの大学と情報・意見交換を行い、協力の可能性を探った。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

(ロシア6連携校学生の受入)

・プログラムコーディネーターと留学支援共同利用センターの連携関係をより一層緊密化させることで、受入学生の入国前から帰国までのサポートを十分に実施することができた。

(本学学生の派遣)

・現地(在モスクワ)コーディネーター、国立研究大学高等経済学院に設置した Global Japan Office(GJO)によるインターンシップのサポート等派遣学生への支援体制を継続した。派遣前にはロシアに特化した危機管理説明会を実施した。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

・(国際化)事業実施により派遣・受入学生の絶対数と日露の学生が交流する機会が飛躍的に増えた。
 ・(情報の公開、成果の普及)本交流プログラムの広報・情報発信のためのホームページをより見やすくするとともに内容を充実させた。インターンシップ、実学教育、交流活動等、本事業の取組実績をリアルタイムで発信した。

■ グッドプラクティス等

・多種多様なインターンシップを日本国内及びロシアで実施することができた。ロシア国内で19件、延べ70名、日本国内で17件、延べ69名のインターンシップを実施した。単位を修得できる就業体験科目をモスクワと東京で開講した。
 ・2020年度中にモスクワで実施する日本アニメフェスティバル「J-ANIME MEETING IN RUSSIA」の準備作業を事業参加型インターンシップとして位置づけ、本学学生20名、ロシアの学生26名が参加した。本イベントは日本映像翻訳アカデミーの主催、本学共催で実施される「産学合同プロジェクト」で、1月の産官学連携実務者会議でグッドプラクティスの事例として取り上げられ、パネルディスカッションの形式で他大学の関係者に活動状況等をシェアする機会が得られた。なお、本イベントは、外務省の日露地域交流年事業として認定をされている。
 ・実学教育強化の一環で「駐在員のロシア語(ビジネスロシア語)」を秋学期に新規開講したほか、「日露ビジネス講義」、「ロシア語医療通訳入門」を継続して開講し、学生の日露ビジネスへの認識を高めることに成功した。

4. 取組内容の進捗状況(令和2年度)

【事業の名称】(選定年度2017年度・タイプA(ロシア))

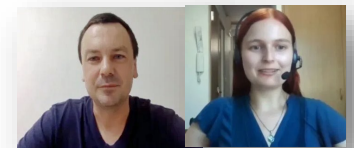
日露人的交流の飛躍的拡大に貢献するTUFSS日露ビジネス人材育成プログラム

■ 交流プログラムの実施状況

・コロナ禍に対応した交流プログラムを実施した。



オンライン・サマースクールに参加した日露の学生たち



サマースクールで国際日本学を担当した講師
(左) デニスさん、(右) マリアさん

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

- ・短期派遣: 後述のJ-ANIMEプログラムに7名が参加した。
- ・長期派遣: 協定校の遠隔講義に9名 J-ANIMEプログラムに8名が参加した。

○ 外国人学生の受入

- ・短期受入: 渡航を伴うサマースクールの実施形態をオンラインに変更し、日露学生の双方向性を確保しながら「日露タンデム学習」、「国際日本学」、「字幕翻訳演習」を実施した。参加者は本学から29名、ロシアの6協定校から27名。参加者全員に単位を付与した。また、J-ANIMEプログラムに1名が短期で参加した。
- ・長期受入: 10月にモスクワ国際関係大学から2名、ロシア国立人文大学から5名、極東連邦大学から1名、合計8名を受け入れた(尚、他の6名はJ-ANIMEプログラムに参加)。日本語に加え、日本の文化及び社会関連科目を中心に学び、我が国の文化・社会・経済について受入学生の理解が深まった。

	令和2年度 (2020)		
	プログラム	計画	実績
学生の派遣	短期	19	7
	長期	15	17
学生の受入	短期	30	28
	長期	15	14

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

・コロナ禍のため本学教職員のロシア派遣を見送ったが、Global Japan Office (GJO)を設置している高等経済学院との間で、オンラインでの取り組みについて意見・情報交換を行った。同大学の教員によるオンライン講義の可能性について、2021年の実施に向け、協議を継続することで一致した。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

(ロシア6連携校学生の受入)

・プログラムコーディネーターと留学支援共同利用センターの連携により、受入の準備、到着してから帰国までの新型コロナウイルス感染対策に伴う各サポート等を、受入学生に提供した。

(本学学生の派遣)

・サポート体制は整っていたがコロナ禍により実派遣を見送り、代替としてオンラインプログラムを開発、提供した。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

- ・(国際化)2020年度は取組をオンライン化したうえで、日露の学生が交流する機会を確保した。
- ・(情報の公開、成果の普及)本交流プログラムの広報・情報発信のためのホームページにより インターンシップ、実学教育、交流活動等、本事業の取組実績をリアルタイムで発信した。

■ グッドプラクティス等

(実学教育強化の取組)

- ・ロシアビジネスに従事し実績を上げてこられた方々の知見を学生に伝えるリレー講義「日露ビジネス講義」を春学期にオンラインで開講し、49名の学生が履修した。過去2年(2018/2019年)で未カバーだった文化交流、観光、食品、林業、漁業の分野についての講義もあり、多様性が増した。
- ・秋学期にビジネスロシア語の授業「駐在員のロシア語」を前年に引き続き開講した。単なる言葉の置き換えではない、ビジネスの基礎知識(マーケティング、インコタームズ、ロジスティクス、財務諸表、人事労務管理等)を教授したうえでの実務的ロシア語教育を行った。

(事業参加型インターンシップ“J-ANIME MEETING IN RUSSIA”)

・日本映像翻訳アカデミー(JVTA)が主催、本学が共催したオンラインアニメイベントを11月14、15日に実施した。準備は約1年前から始まり、JVTAのマネジメントのもと本学の学生22名を含む日露の学生79名がさまざまな期間にわたりインターンシップに取り組んだ。学生たちは作品選定、協賛企業開拓、上映権利者との交渉、翻訳作業、PR、クラウドファンディング、上映会運営に主体的に取り組んだ。延べ視聴者数:5000人超。



プロの声優をゲストに迎えた
トークショーの一コマ

5. 取組内容の進捗状況(令和3年度)

【東京外国語大学】

【事業の名称】(選定年度29年度・タイプA(ロシア))

日露人的交流の飛躍的拡大に貢献するTUFSS日露ビジネス人材育成プログラム

■ 交流プログラムの実施状況

- ・前年に続き、コロナ禍に対応した交流プログラムを実施した。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

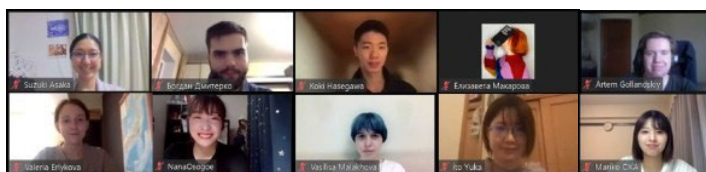
	令和3年度(2021)		
	プログラム	計画	実績
学生の派遣	短期	22	14
	長期	15	29
学生の受入	短期	32	23
	長期	15	18

○ 日本人学生の派遣

- ・短期派遣: 4名がモスクワ大学、10名が本学のオンラインプログラムを履修した。
- ・長期派遣: 12名が実渡航やハイブリッドで留学、1名がオンライン履修し、16名がJ-Animeプログラムに参加した。

○ 外国人学生の受入

- ・短期受入: 昨年に引き続き、プログラムの実施形態をオンラインにし、従来どおり「日露タンデム学習」、「国際日本学」、「字幕翻訳演習」を組み入れた。ロシア6協定校から23名が参加し、本学の学生と交流しながら学んだ。
- ・長期受入: オンラインで8名を受け入れた。日本語に加え、日本の文化及び社会関連科目を中心に学び、我が国の文化・社会・経済について受入学生の理解が深まった。10名がJ-Animeプログラムに参加した。



①オンライン・サマースクールに参加した日露の学生たち



②サマースクールにおける、バーチャル東京ツアー(JIC旅行センター)

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- ・コロナ禍のため本学教職員のロシア派遣を見送ったが、Global Japan Office (GJO)を設置している高等経済学院との間で、オンラインでの取り組みについて意見・情報交換を行った。同大学の教員によるオンライン講義の可能性について、2022年以降の実施に向け、協議を継続することで一致した。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

(ロシア6連携校学生の受入)

- ・実渡航での受け入れ態勢を整えたことに加え、オンラインでの受け入れ態勢を充実させ、短期・長期合計で41名を受け入れすることができた。

(本学学生の派遣)

- ・前年から整備したコロナ禍での感染対策に関するサポート体制を用い、12名を実渡航により派遣できた。国際状況変化に迅速に対応し、派遣学生の安全な帰国を支援した。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

- ・(国際化)取組をオンライン化したうえで、日露の学生が交流する機会を確保した。
- ・(情報の公開、成果の普及)本交流プログラムの広報・情報発信のためのホームページにより インターンシップ、実学教育、交流活動等、本事業の取組実績をリアルタイムで発信した。特に2022年2月に実施された「採択校連絡会」において、以下J-Animeプログラムにおけるグッドプラクティスについて、教員・学生が発表した。

■ グッドプラクティス等

(事業参加型インターンシップ“J-ANIME MEETING IN RUSSIA”)

- ・2021年11月27、28日の2日間、昨年にも続き、学生にとっての貴重な就業体験機会であるオンラインアニメイベントJ-ANIME MEETING IN RUSSIA(主催:日本映像翻訳アカデミー(JVTA)、共催:本学)が開催された。本学の学生16名、ロシア協定校の学生10名を含む日露の学生64名がプロジェクトに従事した。2021年度も神戸市外大、上智大、筑波大の学生、ロシア協定校以外の学生にも門戸を広げ、ビジネス人材としてのインターンシップの機会を共有した。作品選定、上映権利者との交渉、翻訳作業、PR、協賛企業開拓・クラウドファンディング、上映会運営に主体的に取り組み、日本文化の発信に貢献したほか、有用となるスキルやコンピテンシーを身につけた。



J-Anime リハーサル風景

(実学教育強化の取組を継続)

- ・ロシアビジネスに従事し実績を上げてこられた実業界を中心とする方々の知見を学生に伝えるリレー講義「日露ビジネス講義」を春学期にオンラインで開講し、55名の学生が履修した。
- ・秋学期にビジネスロシア語の授業「駐在員のロシア語」を前年に引き続き開講するとともに、前年度休講した「ロシア語医療通訳入門」を再開した。